



# 「国立科学博物館大学パートナーシップ」利用 入館者アンケート調査 2018

2019年1月

国立科学博物館  
連携推進・学習センター 学習課



## 1. 国立科学博物館大学パートナーシップ制度とは

国立科学博物館と大学が連携し、学生の科学リテラシー及びサイエンスコミュニケーション能力の向上に資することを目的として、平成 17 年 7 月より開始した。

学生数に応じた一定の年会費を納めた大学等に対し、連携プログラムを提供している。

### ① 常設展の無料入館、特別展の特別料金での観覧

入会した大学の学生は、学生証を提示することにより、当館施設に無料で何度でも入館(入園)できる。また、上野地区にて開催される特別展は、620 円引きで観覧できる。

※特別展によって620円引きにならない場合がある。

利用可能施設 国立科学博物館（台東区）  
附属自然教育園（港区）  
筑波実験植物園（つくば市）

### ② サイエンスコミュニケータ養成実践講座（平成 18 年度より）

国立科学博物館の資源や環境を活用した理論と実践を組み合わせた対話型学習。人々の意識、意欲、知識、技術を総合する「つながる知の創造」を目指す。

### ③ 大学生のための自然史講座（平成 18 年度より）

国立科学博物館における長期プロジェクト「日本列島の自然史科学的総合研究」の成果に基づき、研究者が主に講師を務める講座。

### ④ 大学生のための科学技術史講座（平成 19 年度より）

国立科学博物館の研究者を中心に、我が国の産業・文化を支えてきた、日本の「ものづくり」にスポットを当てた講座。

### ⑤ 博物館実習生の受入（平成 18 年度より 2 コースを設ける）

博物館の専門的職員である学芸員の資格取得を目指す学生に対し、学芸員としての資質・能力を体験的に養わせる実習をおこなう。

平成 18 年度から、より専門的な内容として、主に調査研究・資料収集・保管に関するコースと主に学習支援活動に関するコースの 2 コースを設けて実施している。

### ⑥ 見学ガイダンスの実施（平成 26 年度より）

大学のオリエンテーションや講義での博物館利用機会の推進を図ることで、学生の博物館理解の向上と利用機会の増進を目的として実施している。

### ⑦ 大学との連携講座（平成 30 年度より）

自然史に関する実習の機会をより広く提供するため、平成 28 年度より試行的にお茶の水女子大学と連携し、大学パートナーシップ加入校の学生の優先枠を設けて、講座参加者を募集している。

## 2. 平成 30 年度入会大学一覧

ア行	青山学院大学 麻布大学 桜美林大学 大妻女子大学（短期大学） お茶の水女子大学
カ行	学校法人香川栄養学園（女子栄養大学・短期大学部・香川調理製菓専門学校） 学習院大学 神奈川大学理学部 神奈川工科大学 慶應義塾大学 工学院大学 国際基督教大学 国士舘大学文学部 国士舘大学理工学部
サ行	埼玉大学 芝浦工業大学 十文字学園女子大学 首都大学東京 学校法人上智学院（上智大学・短期大学部・上智社会福祉専門学校） 聖徳大学（短期大学部・幼児教育専門学校）
タ行	大正大学 玉川大学 多摩美術大学 千葉大学理学部・理学研究科・融合理工学府（理学領域） 千葉工業大学 中央大学理工学部・理工学研究科 中央医療学園専門学校 筑波大学 津田塾大学 帝京大学（短期大学） 帝京科学大学 帝京平成大学 電気通信大学 東海大学 東京大学 東京医療学院大学 東京医療保健大学 東京海洋大学 東京学芸大学 東京家政大学（短期大学部） 東京環境工科専門学校 東京藝術大学 東京工業大学 東京工芸大学 東京慈恵会医科大学 東京女子大学 東京造形大学 東京電機大学 東京都市大学知識工学部 東京農業大学 東京農工大学 東京理科大学 東邦大学 東洋大学 獨協大学
ナ行	二松学舎大学 日本大学生産工学部 日本工業大学 日本獣医生命科学大学 日本女子大学 日本薬科大学
ハ行	文教大学
マ行	武蔵野美術大学 明治大学 明治学院大学芸術学科・芸術学専攻 明星大学
ヤ行	学校法人ヤマザキ学園（ヤマザキ動物看護大学・ヤマザキ動物専門学校）
ラ行	立教大学 立正大学
ワ行	学校法人早稲田大学（早稲田大学・早稲田大学芸術学校）
計 70 校	

## 3. 平成 30 年度大学パートナーシップ利用入館者状況（4-12月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
上野地区	6,607	7,101	6,798	3,841	4,852	4,528	2,428	2,464	2,964	41,583
附属自然教育園	95	139	95	22	36	51	143	84	52	717
筑波実験植物園	247	327	788	159	115	215	469	211	82	2,613
3施設合計	6,949	7,567	7,681	4,022	5,003	4,794	3,040	2,759	3,098	44,913

（参考）

入館者数の多い大学（学校）上位 5 校

学校名	入館者数
早稲田大学	3,850 人
筑波大学	3,681 人
東京大学	3,361 人
慶應義塾大学	1,764 人
明治大学	1,674 人

利用率の高い大学（学校）上位 5 校

学校名	利用率（入館者数/学生数）
東京環境工科専門学校	208.1%
学校法人ヤマザキ学園	52.8%
日本薬科大学	42.5%
東京藝術大学	29.7%
日本獣医生命科学大学	26.9%

## 4. 入館者に対するアンケート調査

平成 17 年 7 月より開始された「国立科学博物館大学パートナーシップ」制度は、平成 31 年 1 月現在、入会校数 70 校、月平均 4,000 名程度の利用者数を数えるようになっている。

本調査は、平成 27 年度の調査に引き続き実施し、経年の変化・当該制度の認知度・利用者の属性等を調査し制度の一層の充実を図るとともに、入会大学における学生等への広報の方法について検討材料とすることを目的として実施した。

### 調査概要

調査期間：平成 30 年 9 月 7 日（金）から平成 30 年 11 月 24 日（土）

調査対象：国立科学博物館上野本館にて大学パートナーシップ制度を利用し入館した学生

調査方法：アンケート調査 総合案内にて利用者全員に調査票を配付し、同窓口にて回収

調査票：巻末の参考資料を参照

有効回収数：1,298 件

※特別展入口からの利用者については配付していない

（参考：調査期間中の特別展・企画展等）

- ・特別展 昆虫（7/13～10/8）
- ・企画展 標本づくりの技(ワザ)－職人たちが支える科博－（9/4～11/25）
- ・特別展 日本を変えた千の技術博（10/30～3/3）

### 調査結果要旨

平成 27 年度調査（前回）の結果と同じ傾向である項目が多かった。前回から変化が認められた部分があった場合については、各項目で記述した。また、各項目の特徴的な傾向を下線で示した。

#### 【専攻分野】

学生を専攻分野別に分けると、理系 58%:文系 42%で理系学生の方がやや多い。

前回調査でも理系の学生が 67%と多かったが、文系の学生の割合が増えている。

\*「文系・理系」を分ける専攻分野別学生数は本人の回答および集計者が各大学の学部・学科等を考慮して算出

#### 【性別】

男性 51.1%:女性 48.9%と、男女の割合はほぼ同じである。

#### 【一緒に来た人】

「友人・仲間と」37.1%について、「同伴者なし」28.7%、次に「彼氏・彼女と」18.9%という回答が多い。「大学の同級生と（授業の一環）」「ゼミ・サークルなどの団体で」も合わせると約 10%の回答があり、団体での利用も一定数あることが伺える。

#### 【来館回数】

44.1%が 4 回以上来館したことがあると回答している。一方で、大学 PS の制度を利用したの来館は初めて、が 51%と半数を超えている。

### 【制度に関する情報源】

「友人・知人に教えられて」が23.6%と最も多い。次いで「教員からの紹介」が20.8%、「ポスター・チラシ」が20.2%となり、いわゆる「ロコミ」とポスター等掲示物での認知が多いことがわかる。

### 【無料入館（620円引き）をどのように感じるか】

「無料（620円引き）だから来館した」と答える学生が53.2%、「無料でなくても来館したが来館しやすくなった」と答える学生が43.6%にのぼる。合わせて96.8%とほとんどの利用者にとって、無料入館が来館の主な動機となっていることが伺われる。

### 【科学技術についてのニュースや話題への関心】

約9割の学生が、「関心がある」「ある程度関心がある」と回答している。

### 【科学技術に関する知識の情報源】

全体としては「インターネット」が67.5%と最も多い。前回調査で1位だった「テレビ」は56.9%で2位となっている。

前回調査と同様に、文系・理系に関わらず25%以上が「科学館・博物館」を情報源として活用している。

### 【自由記述の傾向と代表的意見】

無料なので気軽に来館が出来る、大学での勉強の復習や息抜きに利用しているという感想が多く寄せられた。印象に残った展示としては、ヨシモトコレクション・地球史ナビゲーター・恐竜・体験型展示・企画展など広範囲にわたり、改修中のシアター360が見られず残念だ、との意見もあった。一方で、展示物が多く導線がわかりにくい、解説をもっと詳しくしてほしい等の改善点も寄せられた。

パートナーシップ制度については好意的な意見が9割以上を占めていたが、他大学も入れて欲しい・同行者の割引があると良い等、同行者と入館料が異なることへの懸念が伺われた。また、認知度が低いため広報に力を入れるべき、との意見も多く寄せられた。

## 5. アンケート調査の結果から

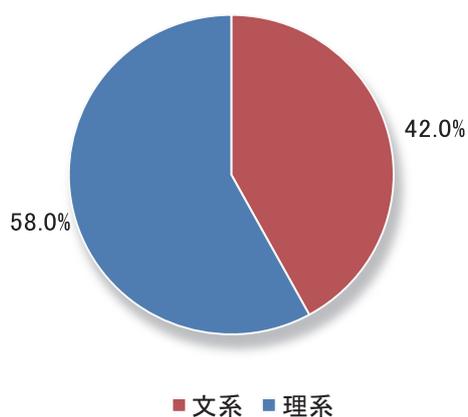
回答した学生の学年に偏りはないが、過半数が「制度を利用して来館したのは初めて」と回答している。また、自由記述への回答から、学生への周知がまだ十分でないことが伺える。

制度に関する情報源としてロコミや大学での広報が多く挙げられていることから、入会大学・学校へ更なる協力を依頼するとともに、国立科学博物館としても学生へ働きかけを行う。

- ポスター・チラシ等の掲示・配布について、引き続き入会大学・学校に協力を依頼する。
- 上記に加え、学生便覧への掲載・新入生ガイダンスでの配布・大学HPへの掲載・メールでの配信等、より認知されやすい方法での周知を依頼する。
- 国立科学博物館HP・館内掲示等の表示について、より目につきやすいよう改善を行う。
- 近年情報を得る手段の主流となっているインターネット・SNS等でより広く広報を行う。

調査結果詳細(※全体の回答および性別、専攻分野で傾向の違いが出たものについて示す。)

【回答者の専攻分野】

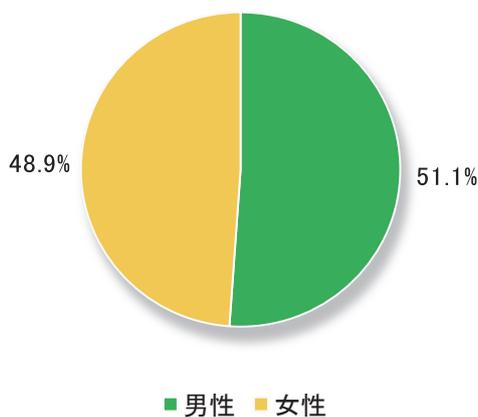


	回答数	構成比率
文系	519	42.0%
理系	716	58.0%

\*「専攻分野」は、回答および集計者が各大学の学部、学科を考慮して判定した。

- ・理系学生の割合がやや高い。

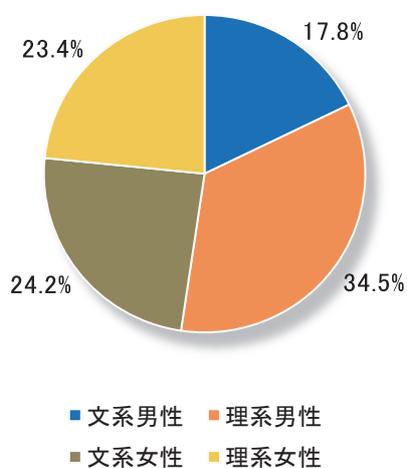
【回答者の性別】



	回答数	構成比率
男性	663	51.1%
女性	634	48.9%

- ・男性女性はほぼ半数。

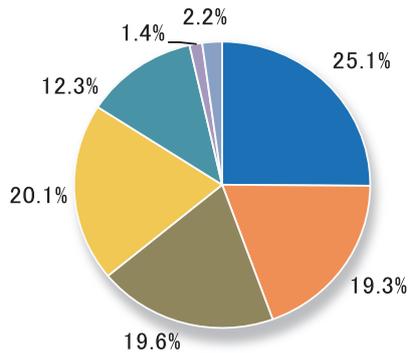
【回答者の専攻分野と性別】



	回答数	構成比率
文系男性	220	17.8%
理系男性	426	34.5%
文系女性	299	24.2%
理系女性	289	23.4%

- ・理系男性の利用が多い。

## 【回答者の学年】

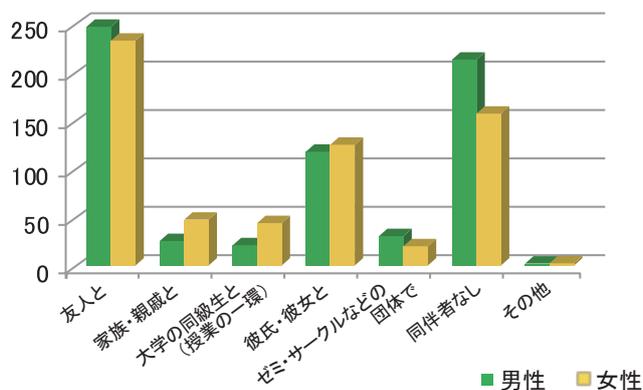
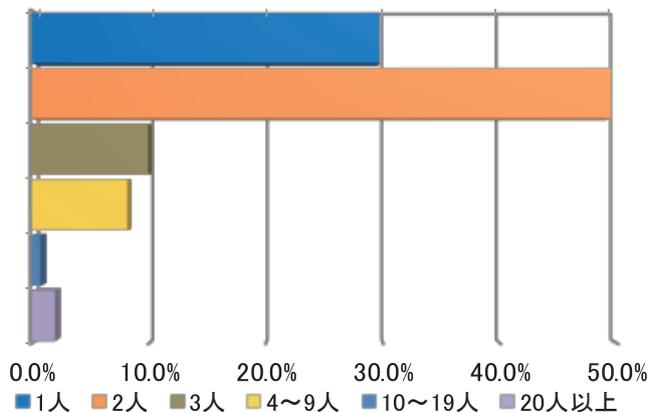


■ 1年生 ■ 2年生 ■ 3年生 ■ 4年生  
■ 大学院生 ■ その他 ■ 留学生

	回答数	構成比率
1年生	326	25.1%
2年生	251	19.3%
3年生	254	19.6%
4年生	261	20.1%
大学院生	160	12.3%
その他	18	1.4%
留学生	28	2.2%

- ・ 1年生の利用がやや多い。
- ・ 留学生も少数ではあるが来館している。

## 【一緒に来た人数、一緒に来た人と来館目的】

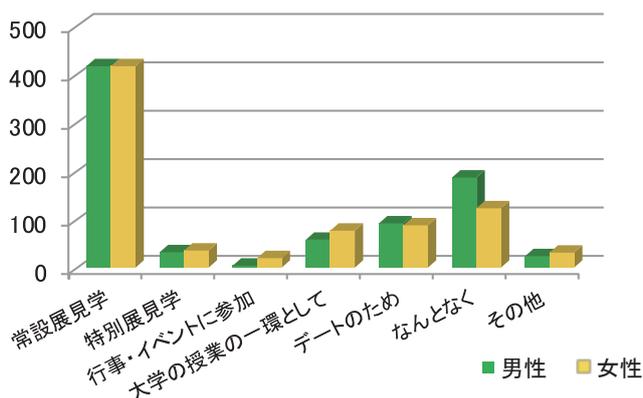


	回答数	構成比率
1人	385	29.7%
2人	641	49.4%
3人	129	9.9%
4～9人	106	8.2%
10～19人	10	0.8%
20人以上	26	2.0%

- ・ 2人での来館が約半数。
- ・ 次いで1人での利用が多い。

	回答数	構成比率
友人と	478	37.1%
家族・親戚と	74	5.7%
大学の同級生と(授業の一環)	66	5.1%
彼氏・彼女と	244	18.9%
ゼミ・サークルなどの団体で	52	4.0%
同伴者なし	370	28.7%
その他	6	0.5%

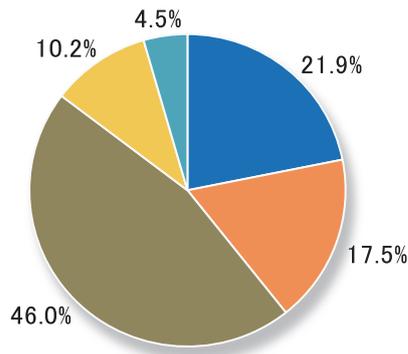
- ・ 友人同士での利用が多く、恋人同士でも利用されている。
- ・ 1人で利用するのは男性が多い。



	回答数	構成比率
常設展見学	835	50.9%
特別展見学	73	4.5%
行事・イベントに参加	28	1.7%
大学の授業の一環として	141	8.6%
デートのため	185	11.3%
なんとなく	316	19.3%
その他	62	3.8%

- ・ 常設展目的の来館が約半数。
- ・ 「なんとなく」「デート」での利用が多い。

### 【博物館や美術館へ行く回数】

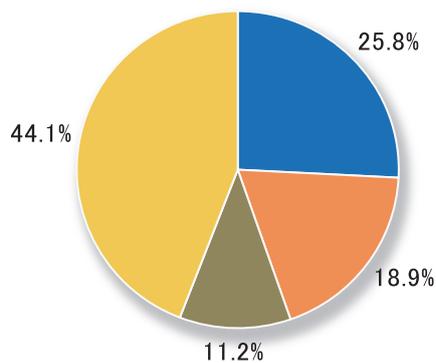


■ 数年に1回程度 ■ 年に1回程度  
■ 年に数回程度 ■ 月に1回程度  
■ 月に数回程度

	回答数	構成比率
数年に1回程度	283	21.9%
年に1回程度	226	17.5%
年に数回程度	596	46.0%
月に1回程度	132	10.2%
月に数回程度	58	4.5%

- ・年に数回程度の利用が約半数。
- ・「月に1回」「月に数回」を合わせると6割が年に数回以上、博物館・美術館を利用している。

### 【国立科学博物館への来館回数】

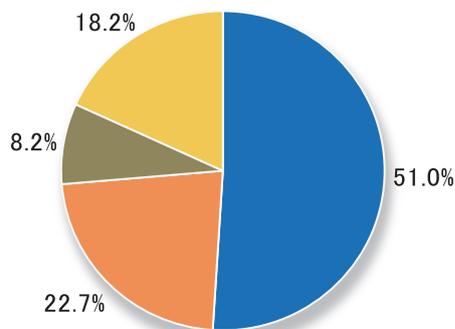


■ 初めて ■ 2回目 ■ 3回目 ■ 4回目以上

	回答数	構成比率
初めて	335	25.8%
2回目	245	18.9%
3回目	145	11.2%
4回目以上	573	44.1%

- ・4回以上来館している学生が最も多い。
- ・次いで初めての利用が多い。

### 【大学パートナーシップ制度を利用しての来館回数】

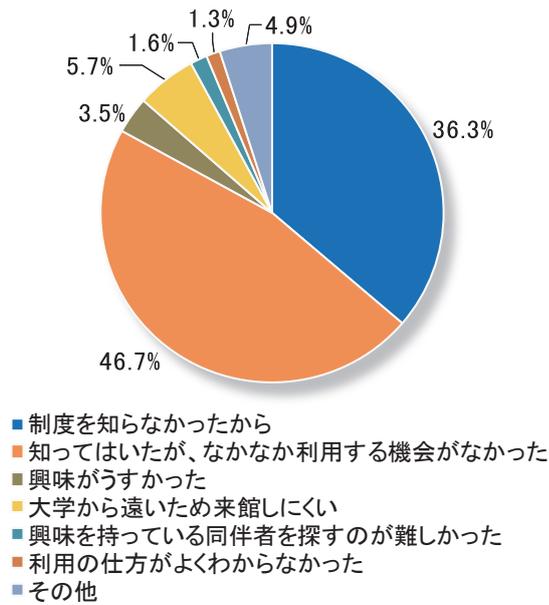


■ 初めて ■ 2回目 ■ 3回目 ■ 4回目以上

	回答数	構成比率
初めて	662	51.0%
2回目	294	22.7%
3回目	106	8.2%
4回目以上	236	18.2%

- ・初めて制度を利用する学生が約半数。

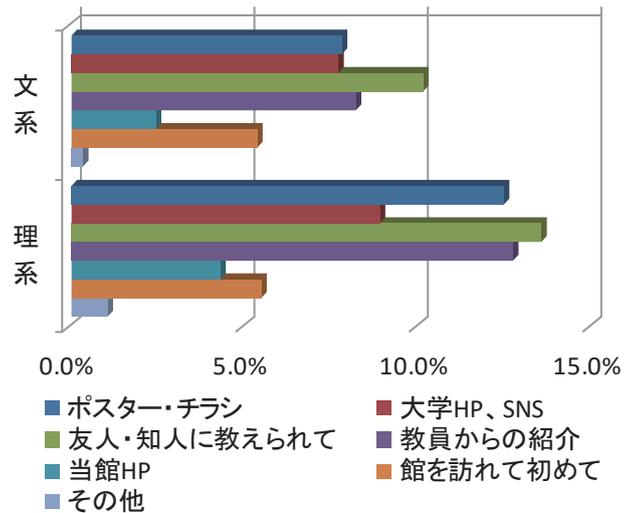
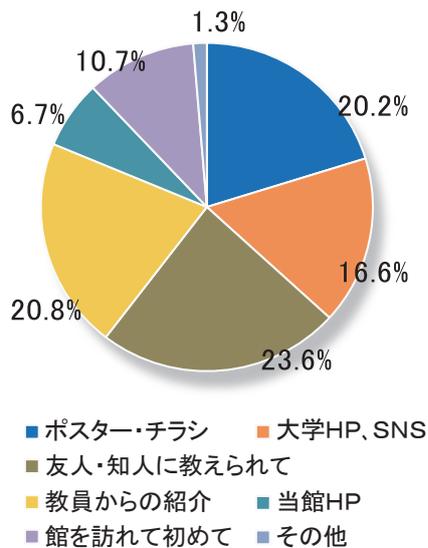
## 【これまで大学パートナーシップ制度を利用しなかった理由】



	回答数	構成比率
制度を知らなかったから	250	36.3%
知ってはいたが、なかなか利用する機会がなかった	322	46.7%
興味があうすかった	24	3.5%
大学から遠いため来館しにくい	39	5.7%
興味を持っている同伴者を探すのが難しかった	11	1.6%
利用の仕方がよくわからなかった	9	1.3%
その他	34	4.9%

- ・「知ってはいたが、なかなか利用する機会がなかった」が最も多い。
- ・「制度を知らなかった」も次いで多い。

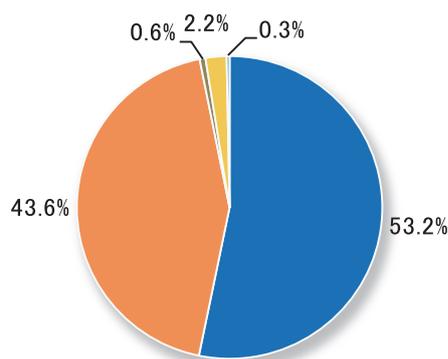
## 【制度（無料入館）に関する情報源】



	文系		理系		全体	
ポスター・チラシ	100	7.8%	160	12.4%	260	20.2%
大学HP、SNS	99	7.7%	114	8.9%	213	16.6%
友人・知人に教えられて	130	10.1%	174	13.5%	304	23.6%
教員からの紹介	105	8.2%	163	12.7%	268	20.8%
当館HP	31	2.4%	55	4.3%	86	6.7%
館を訪れて初めて	68	5.3%	70	5.4%	138	10.7%
その他	4	0.3%	13	1.0%	17	1.3%

- ・いわゆる口コミの「友人・知人に教えられて」「教員からの紹介」が多く、合わせて約半数となる。
- ・「ポスター・チラシ」「大学HP、SNS」も多く、「教員からの紹介」も合わせると、大学における広報で知った学生が半数以上となる。

## 【無料入館（620円引き）をどのように感じるか】



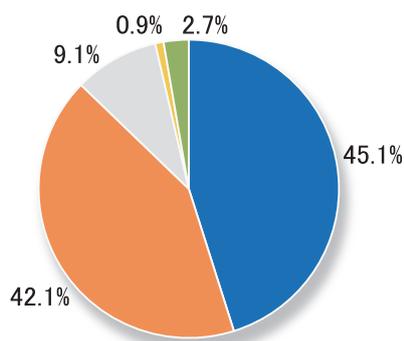
- 無料だったので来館した
- 無料でなくても来館するが、来館しやすくなった
- 特にメリットとは感じない
- わからない
- その他

	回答数	構成比率
無料だったので来館した	693	53.2%
無料でなくても来館するが、来館しやすくなった	568	43.6%
特にメリットとは感じない	8	0.6%
わからない	29	2.2%
その他	4	0.3%

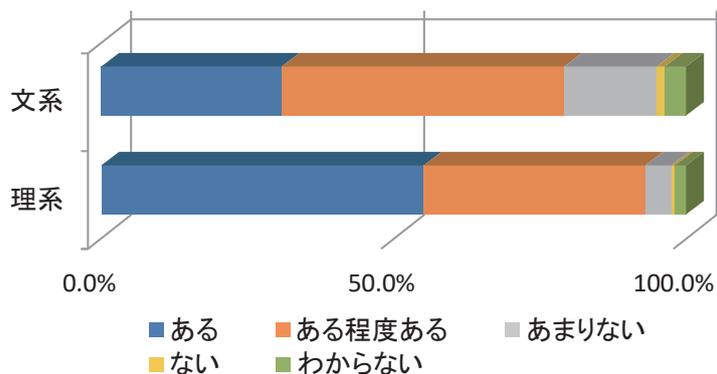
- ・無料入館（620円引き）は学生の強い来館動機になっていることが伺われる。

## 【科学技術についてのニュースや話題への関心】

この項目に関する調査には、内閣府による世論調査報告書「科学技術と社会に関する世論調査」（12頁参照）と同様の質問を用いた。



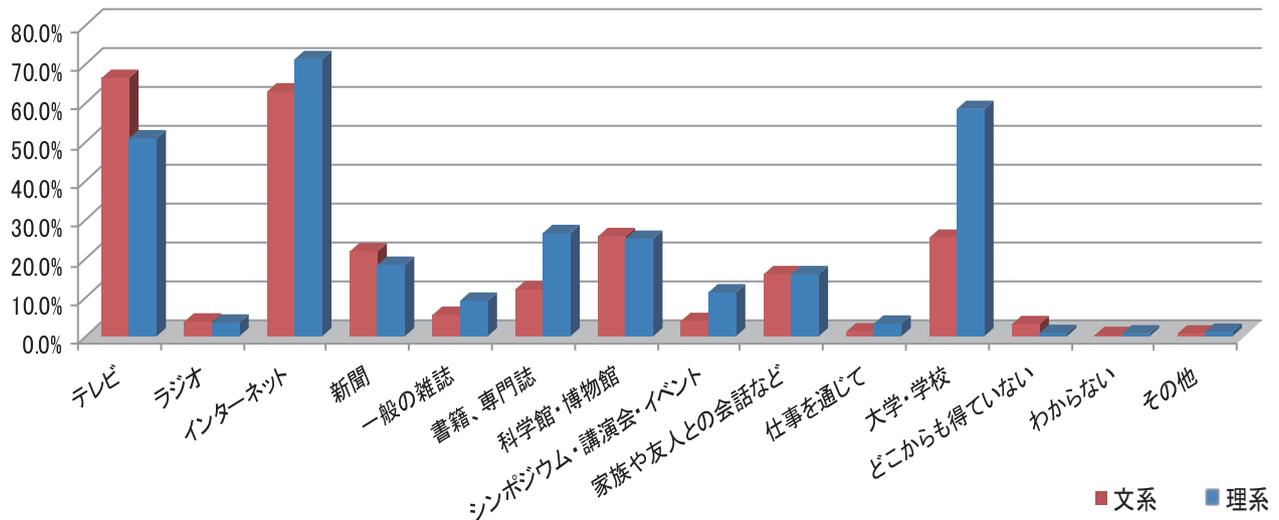
- ある
- ある程度ある
- あまりない
- わからない
- ない



	文系		理系		全体	
ある	160	31.0%	393	55.4%	553	45.1%
ある程度ある	249	48.3%	267	37.7%	516	42.1%
あまりない	81	15.7%	31	4.4%	112	9.1%
ない	7	1.4%	4	0.6%	11	0.9%
わからない	19	3.7%	14	2.0%	33	2.7%

- ・全体では「関心がある」「ある程度ある」で約9割となり、内閣府調査の同年代と比較すると関心が高い。
- ・文系の学生は「ある程度ある」が最も多く、理系の学生は「ある」が最も多い。
- ・文系の場合「あまりない」が15%ほどあり、理系の学生に比べて多い。

## 【科学技術に関する知識の情報源】（複数回答可）



### 各区分における上位6項目

順位	全体		文系		理系		男性		女性	
	情報源	割合								
1	インターネット	67.5%	テレビ	65.7%	インターネット	70.4%	インターネット	74.2%	テレビ	62.6%
2	テレビ	56.9%	インターネット	62.2%	大学・学校	58.0%	テレビ	51.4%	インターネット	60.4%
3	大学・学校	43.5%	科学館・博物館	25.6%	テレビ	50.7%	大学・学校	47.5%	大学・学校	39.3%
4	科学館・博物館	26.0%	大学・学校	25.2%	書籍、専門誌	26.4%	書籍、専門誌	24.7%	科学館・博物館	28.9%
5	書籍、専門誌	20.3%	新聞	21.8%	科学館・博物館	25.3%	科学館・博物館	23.2%	新聞	18.6%
6	新聞	19.3%	家族・友人	15.8%	新聞	18.2%	新聞	20.1%	家族・友人	18.6%

- ・「テレビ」「インターネット」を情報源とする割合はどの区分でも高い。
- ・理系・男性の場合、上記2項目に加えて「大学・学校」を情報源として活用している。
- ・区分に限らず、科学館・博物館が上位5位に入っており、内閣府調査を大きく上回る。

(参考 内閣府「科学技術と社会に関する世論調査」平成29年9月調査)

図1 科学技術に関する関心

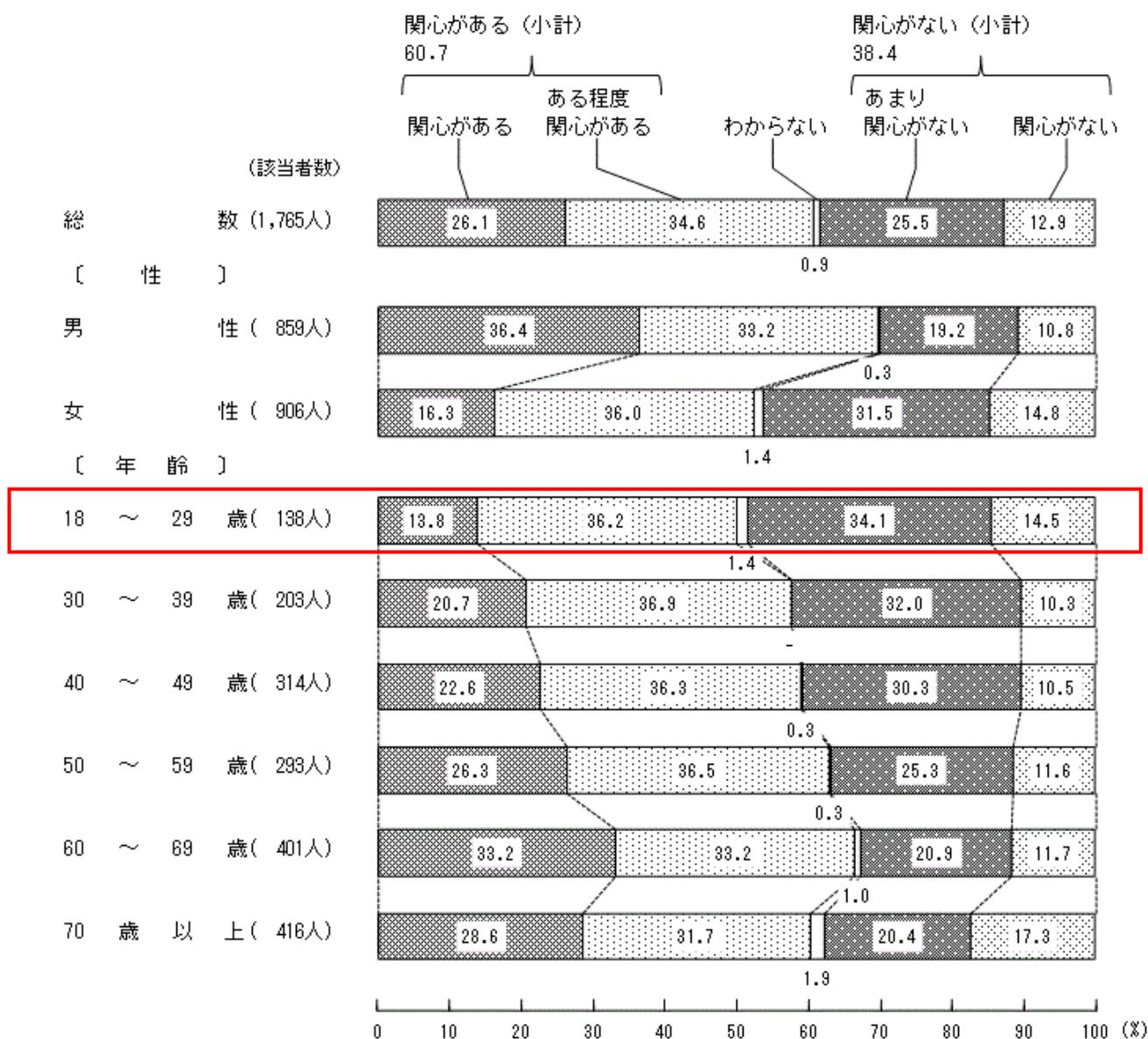
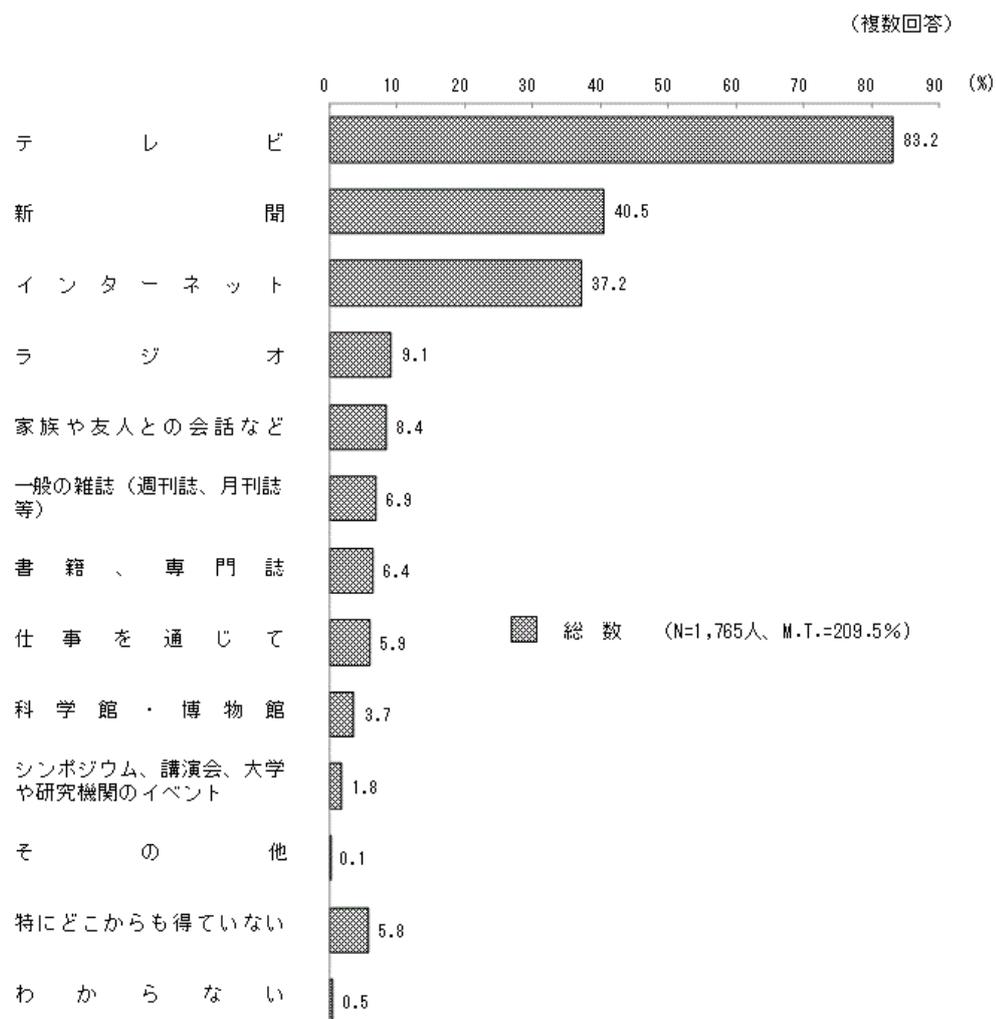
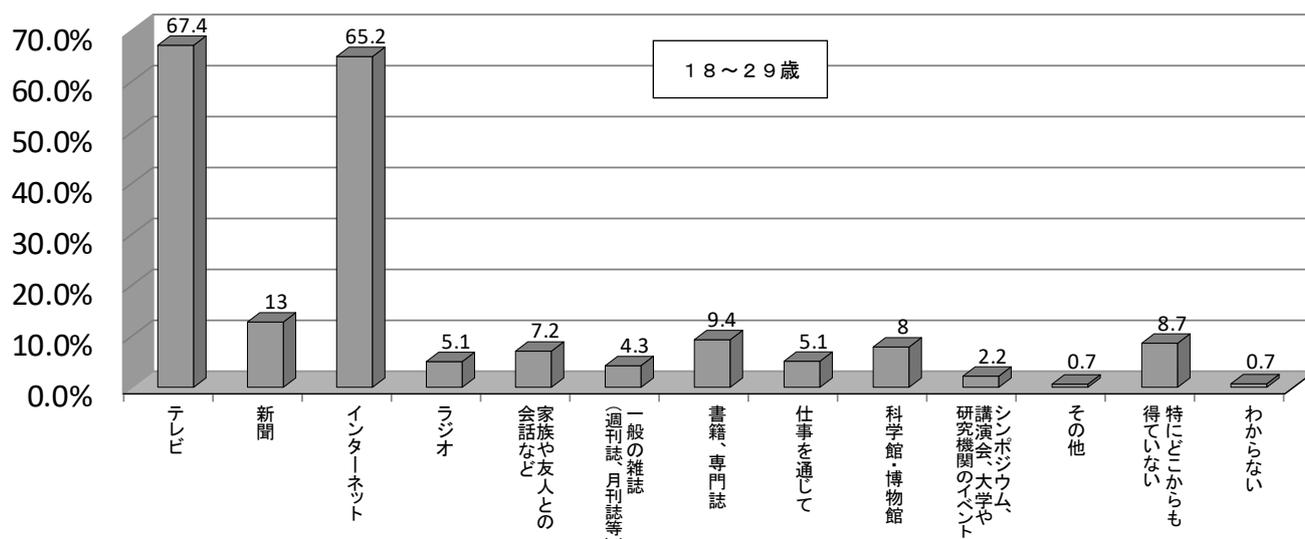


図2 科学技術に関する情報の入手経路



N=138



### 内閣府調査との比較

- ・ 同年代で比較すると、本調査回答者は科学技術に関する興味関心が高い。
- ・ 科学館・博物館、および書籍・専門誌を情報源としている割合が高い。

## 【自由記述（抜粋）】

好意的（全般・展示）		
非常に豊富な資料があり、生物についての展示ではその多様性が、科学についての展示ではその内容が良く分かった。	文系	男性
小学生以来の来館だったが、当時は理解できなかった分野の展示を見て、理解できたときに、学問のおもしろさを感じた。	文系	男性
プレミアムトークの後にフタバズキリュウの化石の実物を観覧でき、より古代生物に対する理解を深められました。	理系	女性
地球館のノーベル賞を受賞した科学者に関する展示が良かった。各科学者を網羅的に眺めつつも興味深い資料が多く展示されているから。	文系	男性
ディノニクスを観察してみよう！で化石を回転させて見れるのが良いと思った。足の裏など普通の展示ではあまりちゃんと見れない部分が見れて嬉しかった。	理系	女性
企画展や特別展を設けることで、常設展無料分が効いて何度も来やすくなっていると思います。日本館に入ってすぐの振り子は、毎回見るたびに、科博に来たワクワク感が得られるので、ずっと展示していて欲しいと思います。	理系	女性
今回は企画展「標本作りの技」のみ観た。小さいスペースだったが、博物館の展示物や保存する物がどのように作られ、標本化されているのか理解できる非常に興味深い展示だった。	文系	男性
好意的（パートナーシップ）		
大学の勉強の一環としても、パートナーシップのおかげで気軽に行きやすいのでありがたい。特別展等も割引になるのが嬉しい。	理系	女性
無料なので気軽に来れた。ヨーロッパでは学生だと無料で博物館と美術館に行けるが日本ではそうでないので、この制度があると気軽に科学や芸術に触れられるから嬉しいです。	文系	女性
好意的（ボランティア）		
小さい子向けの、モノ語りワゴンを聞くだけでも楽しかった。また、細かく教えて下さるので、勉強になった。モノ語りワゴンを回るだけでも楽しく勉強になった。	理系	女性
ボランティアスタッフによる解説やガイドがより理解を深めるきっかけになり、素晴らしい活動だと思います。	文系	女性
要望・意見等（全般・展示）		
導線が良く分からないところがあって、どこから見ればよいのか少し困ったところがあった。	文系	女性
貴重な展示が多くあったが、特に機械系の展示について仕組み、構造が見ただけでは理解しづらいものが見受けられた。	理系	男性
要望・意見等（パートナーシップ）		
対象校でない大学の友人を誘いにくいので、何かしらあるとうれしい。	理系	男性

# 「国立科学博物館 大学パートナーシップ」 ご利用のみなさま



## アンケート調査にご協力をお願いいたします

「国立科学博物館 大学パートナーシップ」制度をご利用いただき、ありがとうございます。  
本制度をより充実させるため、みなさまのご協力をお願いいたします。  
※このアンケートは本事業にかかる目的のみに使用し、他の目的に使用することはありません。

平成30年 独立行政法人 国立科学博物館

以下の問1から問18までの質問にお答え下さい。(質問は裏面にもあります)  
特に指定のない場合は、あてはまる答えを1つだけ選び、数字を○で囲んでください。

### 問1. 大学名

<b>あ行</b>	19 学校法人上智学院	36 東京医療学院大学	58 日本工業大学
1 青山学院大学	・上智大学・短期大学部	37 東京医療保健大学	59 日本獣医生命科学大学
2 麻布大学	・上智社会福祉専門学校	38 東京海洋大学	60 日本女子大学
3 桜美林大学	20 聖徳大学	39 東京学芸大学	61 日本薬科大学
4 大妻女子大学・短期大学部	・聖徳大学・短期大学部	40 東京家政大学・短期大学部	<b>は行</b>
5 お茶の水女子大学	・幼児教育専門学校	41 東京環境工科専門学校	62 文教大学
<b>か行</b>	<b>た行</b>	42 東京藝術大学	<b>ま行</b>
6 学校法人香川栄養学園	21 大正大学	43 東京工業大学	63 武蔵野美術大学
・女子栄養大学・短期大学部	22 玉川大学	44 東京工芸大学	64 明治大学
・香川調理製菓専門学校	23 多摩美術大学	45 東京慈恵会医科大学	65 明治学院大学芸術学科・芸術学専攻
7 学習院大学	24 千葉大学理学部・理学研究科	46 東京女子大学	66 明星大学
8 神奈川大学理学部	・融合理工学府(理学領域)	47 東京造形大学	<b>や行</b>
9 神奈川工科大学	25 千葉工業大学	48 東京電機大学	67 学校法人ヤマザキ学園
10 慶應義塾大学	26 中央大学理工学部・理工学研究科	49 東京都市大学知識工学部	・ヤマザキ動物看護大学
11 工学院大学	27 中央医療学専攻専門学校	50 東京農業大学	・ヤマザキ動物専門学校
12 国際基督教大学	28 筑波大学	51 東京農工大学	<b>ら行</b>
13 国立科学博物館大学文学部	29 津田塾大学	52 東京理科大学	68 立教大学
14 国土館大学理工学部	30 帝京大学・短期大学	53 東邦大学	69 立正大学
<b>さ行</b>	31 帝京科学大学	54 洋南大学	<b>わ行</b>
15 埼玉大学	32 帝京平成大学	55 獨協大学	70 学校法人 早稲田大学
16 芝浦工業大学	33 電気通信大学	<b>な行</b>	・早稲田大学
17 十文字学園女子大学	34 東海大学	56 二松学舎大学	・芸術学校
18 首都大学東京	35 東京大学	57 日本大学生産工学部	

### 問2. 専攻分野 いずれかを○で囲んでください。また、選択不可能な場合はカッコ内にご記入下さい

1 文系 2 理系  
学部( ) 学科等( )

### 問3. 学年 1~6いずれかを○で囲んでください。また、留学生の方は右枠も○で囲んでください

1 1年 2 2年 3 3年 4 4年 5 大学院生 6 その他 7 留学生

### 問4. 性別

1 男 2 女

### 問5. ご来館の人数(自分を含む)

1 1人 2 2人 3 3人 4 4~9人 5 10~19人 6 20人以上

### 問6. ご来館のグループ構成

1 友人と 2 家族・親戚と 3 大学の同級生と(授業の一環で来館) 4 彼氏・彼女と  
5 ゼミ・サークルなどの団体で 6 同伴者なし 7 その他( )

### 問7. 博物館や美術館を利用する回数ほどのくらいですか。

1 数年に1回程度 2 年に1回程度 3 年に数回程度 4 月に1回程度 5 月に数回以上

裏面に続きます

(表面)

### 問8. 当館へ来館されるのは何回目ですか。

1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目以上

### 問9. 「大学パートナーシップ」を利用して(常設展無料・特別展割引で)来館されたのは何回目ですか。

1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目以上

### 問10. 問9で「初めて」とお答えになった方に質問です。これまで当制度を利用されなかったのはなぜですか。

1 制度を知らなかったから 2 知ってはいたが、なかなか利用する機会がなかった 3 興味がうすかった  
4 大学から遠いため来館しにくい 5 興味を持っている同伴者を探すのが難しかった 6 利用の仕方がよくわからなかった  
7 その他( )

### 問11. 「大学パートナーシップ」制度による無料入館をどのようにして知りましたか。

1 大学に掲示されていたポスター・チラシ等で 2 大学HPやSNS等を見て 3 知人・友人に教えられて  
4 教員からの(授業での)紹介で 5 当館HPを見て 6 館を訪れてはじめて知った  
7 その他( )

### 問12. 当制度をどのようにPRすると、より利用しやすくなるでしょうか。ご意見をお聞かせ下さい。

### 問13. 来館目的は何ですか(複数回答可)

1 常設展見学 2 特別展見学 3 行事・イベントに参加  
4 大学の授業の一環として 5 デートのため 6 などとなく  
7 その他( )

### 問14. 入館料の特典(常設展無料、特別展620円引きでの観覧)について、どう思いますか。

1 無料(620円引き)だったので来館した 2 無料(620円引き)でなくても来館するが、来館しやすくなった  
3 特にメリットとは感じない 4 わからない  
5 その他( )

### 問15. 当館をご覧になった印象、感想などを自由にご記入下さい。 (例えば印象に残った展示があれば展示物の名前や、その理由など)

### 問16. 「大学パートナーシップ」制度に関するご意見・ご要望等がございましたら自由にご記入下さい。

以下は科学技術に関するアンケートです。

### 問17. あなたは、科学技術についてのニュースや話題に関心がありますか。

1 関心がある 2 ある程度関心がある 3 あまり関心がない  
4 関心がない 6 わからない

### 問18. あなたは、ふだん科学技術に関する情報をどこから得ていますか。(複数回答可)

1 テレビ 2 ラジオ 3 インターネット  
4 新聞 5 一般の雑誌(週刊誌・月刊誌等) 6 書籍、専門誌(コートン、日経サイエンス、misciなど)  
7 科学館・博物館 8 シンポジウム・講演会・大学や研究機関のイベント 9 家族や友人との会話など  
10 仕事を通じて 11 大学・学校 12 どこからも得ていない  
13 わからない 14 その他( )

ご協力ありがとうございました

★先着でオリジナルグッズをプレゼント★アンケートは総合案内にて回収しております。

(裏面)